

# 日本とアメリカでの 外国語の必要性に対する 認識度の比較

ステファニー・リッツ

アドバイザー

関根繁子教授

齋藤-アボット佳子教授

# 概要

- 研究の重要性
- 研究質問
- **研究**背景
- 研究方法
- 調査結果
- 結果
- 研究の限界点と将来の研究課題
- 参考文献
- 感謝の意

# 研究の重要性

- 日本で留学していた際、英語を勉強している学生に会った
- 彼らは外国語をどこで、何をしたいと思っているかを知りたいと思った
- 日本とアメリカでの外国語の必要性はどのように違うのか、また学生はどのような目標を持ち、満たしていきたいと思っているのか

# 研究質問

1. 外国語を学んでいる日本とアメリカの大学生は、自分の国の外国語の必要性をどのように考えているのか。
2. 日米の学生は、どのような外国語の必要性を満たす具体的な目標を持っているのか。

# 研究背景

## 1. 日本とアメリカの外国語教育

a) 日本:英語

a) 大学入試センター試験

b) アメリカ:スペイン語、仏語、独語、など

a) 大学入学資格

## 2. 「外国語の必要性」とは何か

## 3. 教育理論

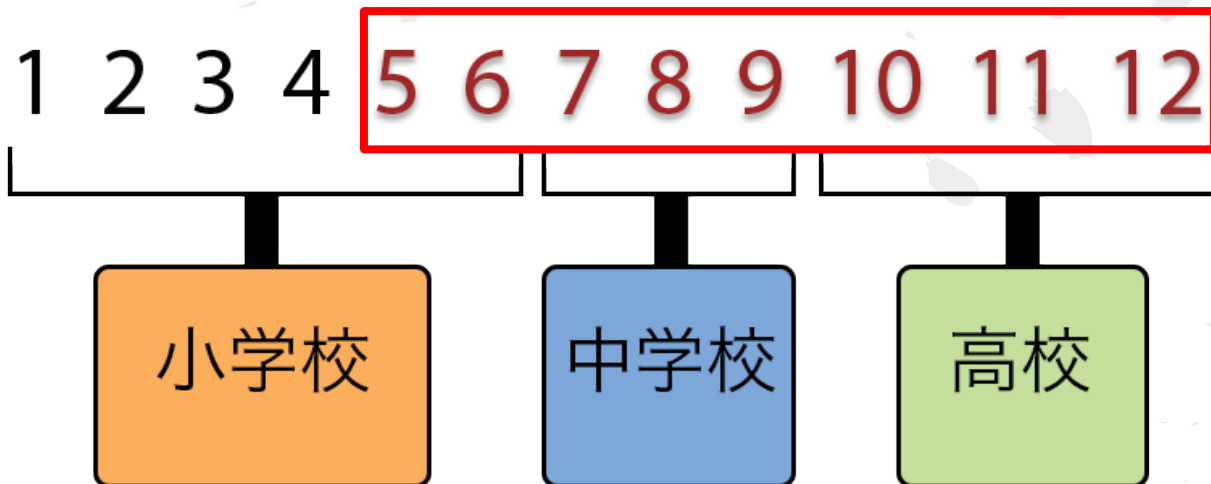
a) 「ゴール設定」

# 日本

- 英語は「主要科目」  
(English Education Reform, n.d.)
- 英語教育は8年間受ける

## 英語教育の要件

小学校5年生から高校3年生まで



# 大学入試センター試験

- 英語教育の一つの目標はグローバル化社会に対応できる人材の育成
- 外国語は大学に入学するためにも重要である
  - 「センター試験」は大学入試のための共通試験  
(独立, n.d.)
- **主要科目**: 国語、地理、歴史、公民、数学、科学と、**外国語**
  - 主に**英語**が、独語、仏語、中国語と、韓国語もある

# アメリカ

- 外国語は連邦政府によって「主要科目」になっている  
(Title IX, n.d.)

- カリフォルニア州では「主要科目」ではなく、「選択科目」

(States, 2008)

- 卒業のために1年間の外国語か美術が必要とされている

- 最も教えられ散る上位3に入る外国語

- スペイン語
- 仏語
- 独語

(Furman, Goldberg & Lusin, 2010)



# 大学入学資格

- カリフォルニア州立の大学に入るために高校での最低二年間の外国語が必要

(HIGH SCHOOL, n.d.)

- 例えば、カリフォルニア州立大学、カリフォルニア大学

# 「外国語の必要性」とは何か

- 国で効果的にコミュニケーションできる人材の「必要性」や「ニーズ」
  - 国内: 移民、継承語話者
  - 国外: 海外で働く、政治
- 外国語の必要性を計るための共通なスケールやテストはない

(Maurer, 2010)

# 教育理論：「ゴール設定」

- より具体的でチャレンジを促す目標を設定することが成功と満足度を高める
- 目標のための理由に集中する (Locke & Latham, 2006)
  - **学ぶ**ために (**内因性動機**に関連している)
    - 主にスキルの習得を目指す
    - 例: 絵を描く
  - **実行する**ために (**外因的動機**に関連している)
    - 主にスキルの成果を目指す
    - 例: お金を受け取るために働く
- 二つの動機は繋がりがあってもまた重なりあう
  - 例: 庭造りを楽しみながら農産物も収穫できる

# 研究方法

- 調査の回答者

- 45大学生

- 25日本の学生

- » 20女名、5男名

- » 日本に色々な大学で勉強している

- 20アメリカの学生

- » 10女性、10男性

- 研究調査

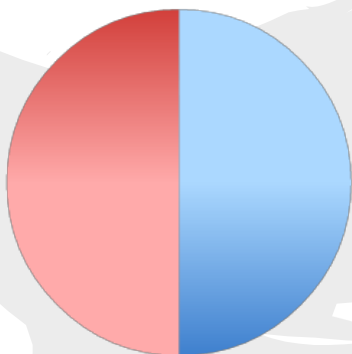
- オンライン調査 (日本語 – 英語)

- グーグルドック

# 参加者について

回答者20名

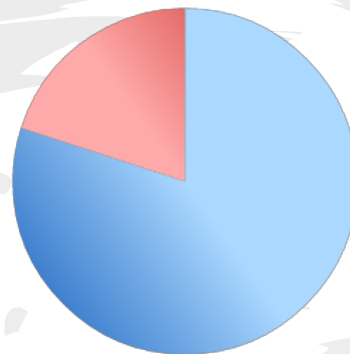
アメリカ



■ 女性  
■ 男性

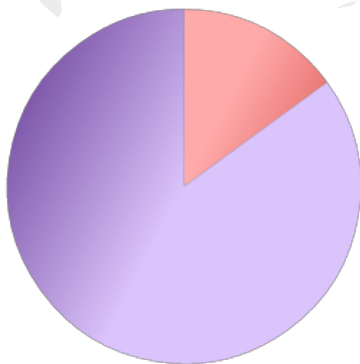
回答者25名

日本



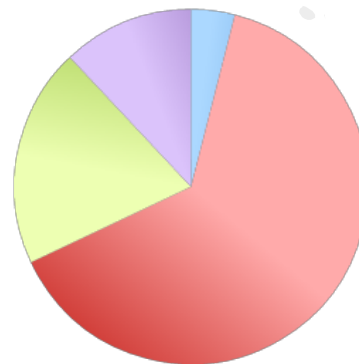
■ 女性  
■ 男性

アメリカの学年



■ 一年生  
■ 二年生  
■ 三年生  
■ 四年生

日本の学年



■ 一年生  
■ 二年生  
■ 三年生  
■ 四年生

# 研究質問1

外国語を学んでいる日本とアメリカの大学生は、  
自分の国の外国語の必要性をどのように考えて  
いるのか。

# 外国語が必要のトップ3

以下の項目について自分の社会の分野で、どの程度、外国語話者が必要だと思いますか。

アメリカ 「非常に」と「かなり」	日本 「非常に」と「かなり」
政治 ( <b>93.8%</b> )	政治・教育 ( <b>85.7%</b> )
教育・仕事 ( <b>85.7%</b> )	仕事 ( <b>81.0%</b> )

80%以上のアメリカ人と日本人の参加者は**仕事、教育、政治**に重要な外国語の必要性があると思っている。

# 外国語の必要性を満たす項目

社会において、外国語話者の必要性を満たす項目

	アメリカ 「いつも」と「よく」と「時々」	日本 「いつも」と「よく」と「時々」
仕事	72.2%	85.7%
教育	44.4%	47.6%
政治	44.4%	76.2%

80%以上のアメリカ人と日本人は**仕事**および**政治**のニーズを満たしているが、まだ外国語のニーズがある。50%未満の参加者は外国語の教育においてのニーズが満たされているにすぎない。

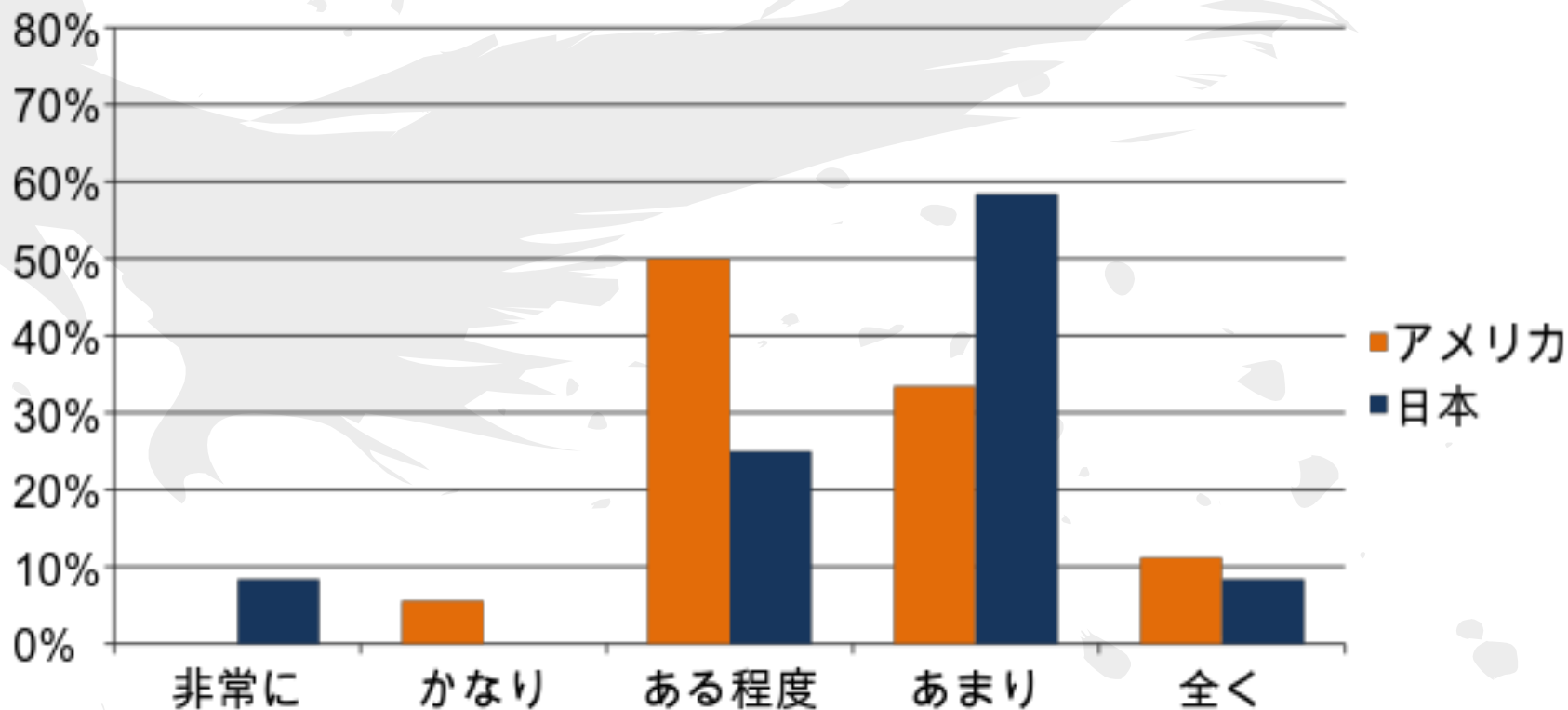


# 取り組むことが必要のトピック<sup>3</sup>

外国語の必要性を満たすために、あなたの国ではどの項目に取り組むことが必要だと思いますか。

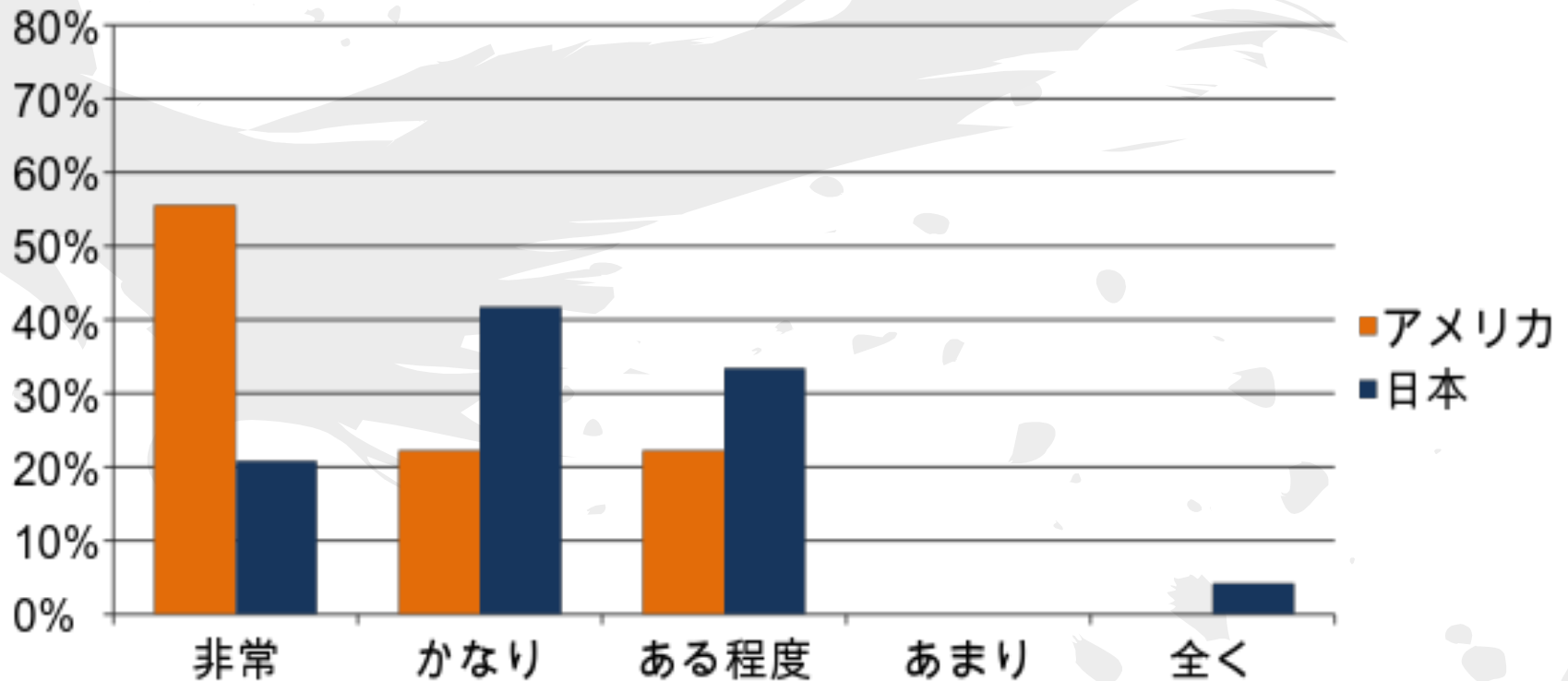
アメリカ 「非常に」と「かなり」	日本 「非常に」と「かなり」
教育・政治 (93.8%)	教育 (90.5%)
仕事 (93.8%)	政治 (85.7%)
---	仕事 (81.0%)

# 国は外国語の必要性を 満たしているか



アメリカ人は国が「**ある程度**」外国語のニーズを満たしているという意見が50%を占める。その一方、日本では国がニーズを「**あまり**」満たしていないと答えた日本人は58%である。

# 外国語の必要性に 貢献することが重要か



両国の外国語学習者は自分の国のニーズに貢献することが**重要**だとし、56%のアメリカ人が「非常に重要」、42%の日本人が「かなり重要」と回答した。

# 研究質問1の要旨

- 両国で外国語のニーズがある面は**仕事、教育、政治**
- **アメリカ人と日本人は仕事面では外国語の必要性を満たしてはいるが、もっと必要である**
- **日本では早くから外国語教育を提供しているが期間より内容に目を向けなければいけないとしている**
- **両国の外国語を勉強している学生は国のニーズを満たすために貢献したいと思っている**

## 研究質問2

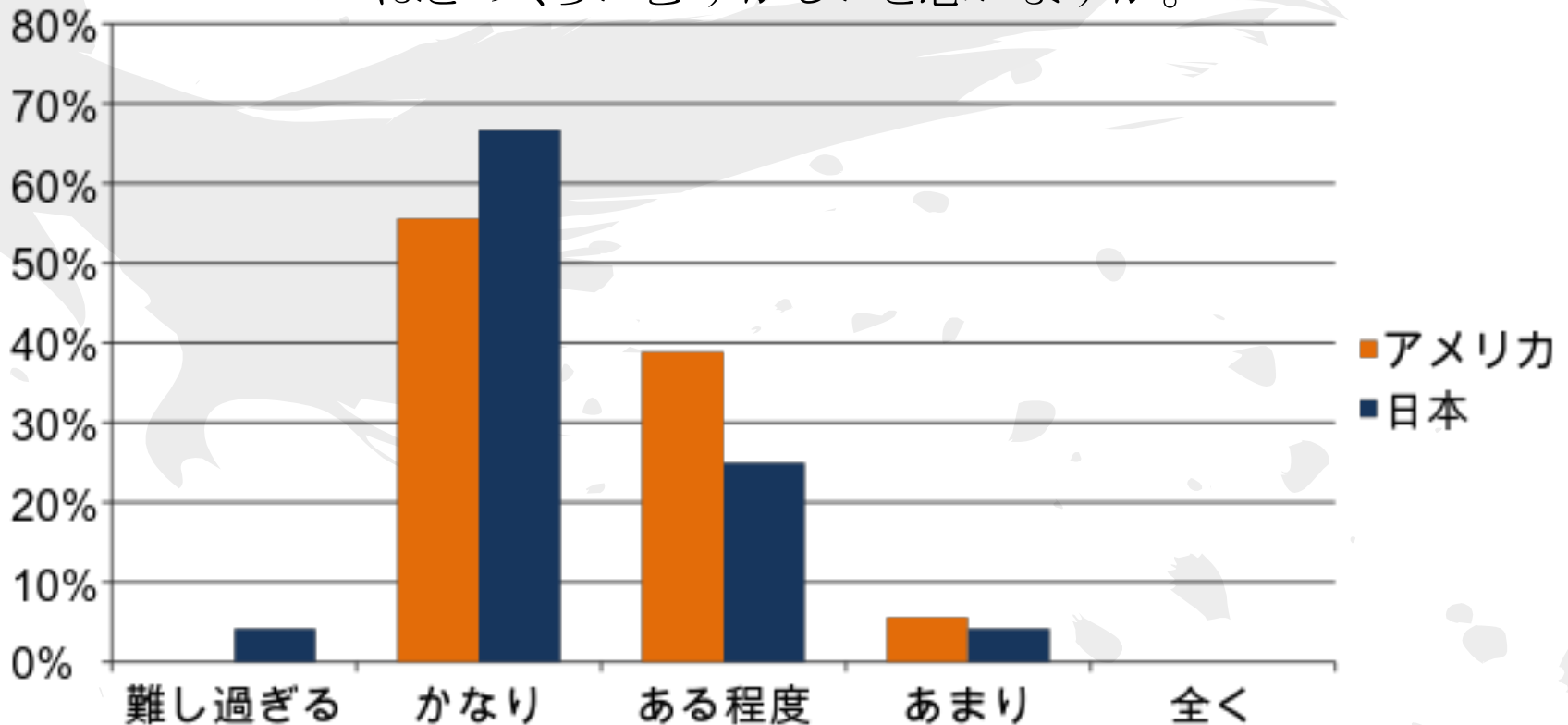
これらの学生は、どのような外国語の必要性を  
満たす具体的な目標を持っているのか。

# 外国語を学んでいる目標

	アメリカ	日本
1	外国語を聞いて理解する	雇用機会の増加
2	雇用機会の増加	海外で働く
3	翻訳・通訳をする	母語話者のように話す や 外国語を聞いて理解する

# むずかしい外国語の目標

あなたが達成したいと思っている外国語能力について目標を達成するのはどのくらいむずかしいと思いますか。



両国の大部分の学生は自分の目標を達成するには**むずかしい**と思っている。

# 学ぶ動機

- 回答者は次の動機のタイプに関して様々な状況に関連した一連の質問と答えた：
  - 内因性: 習得目標、達成の必要性
  - 外因的: 権威の期待、仲間の受け入れ、権力動機と、失敗を恐れ
- 肯定の答えは具体的な動機を表す
- 否定の答えは具体的な動機を表さない

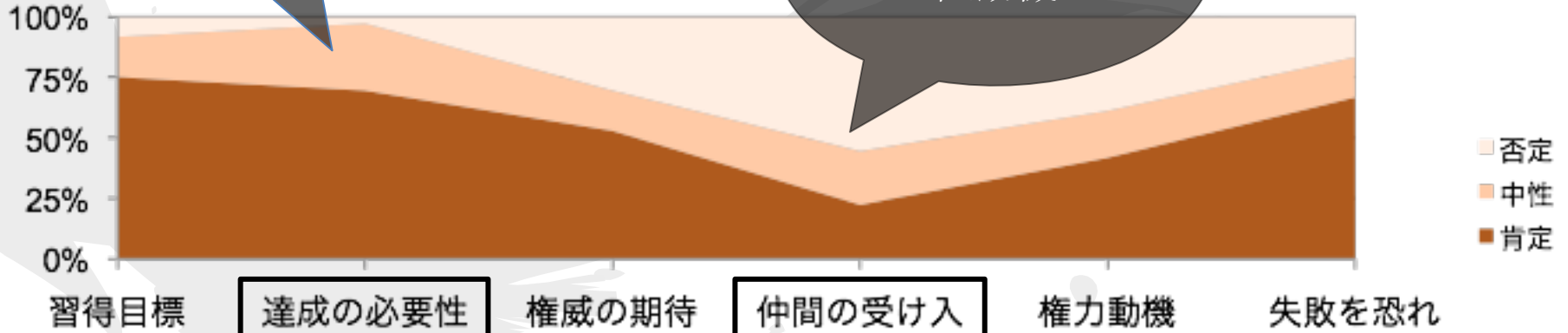


# 学ぶ動機

アメリカ人の最高動機

アメリカの学生

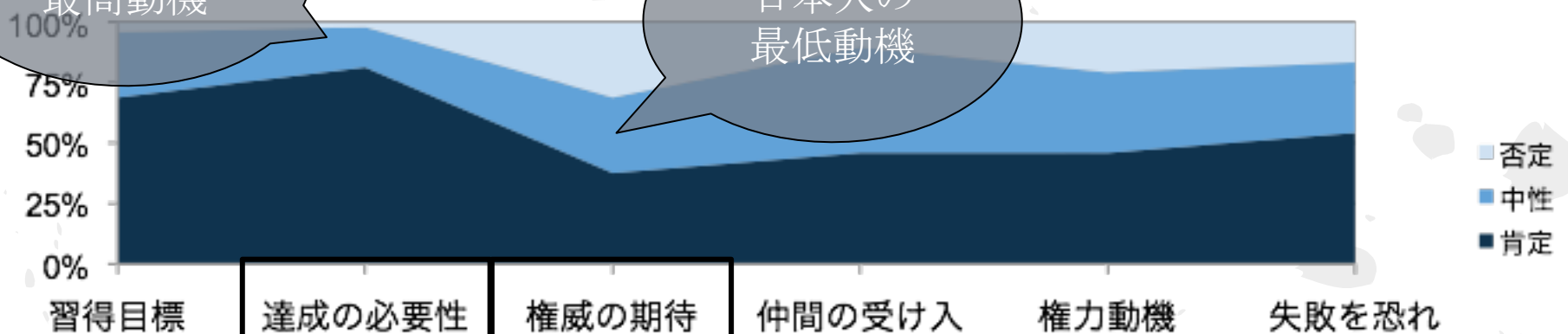
アメリカ人の最低動機



日本人の最高動機

日本の学生

日本人の最低動機



アメリカ人の最  
高動機

# 学ぶ動機

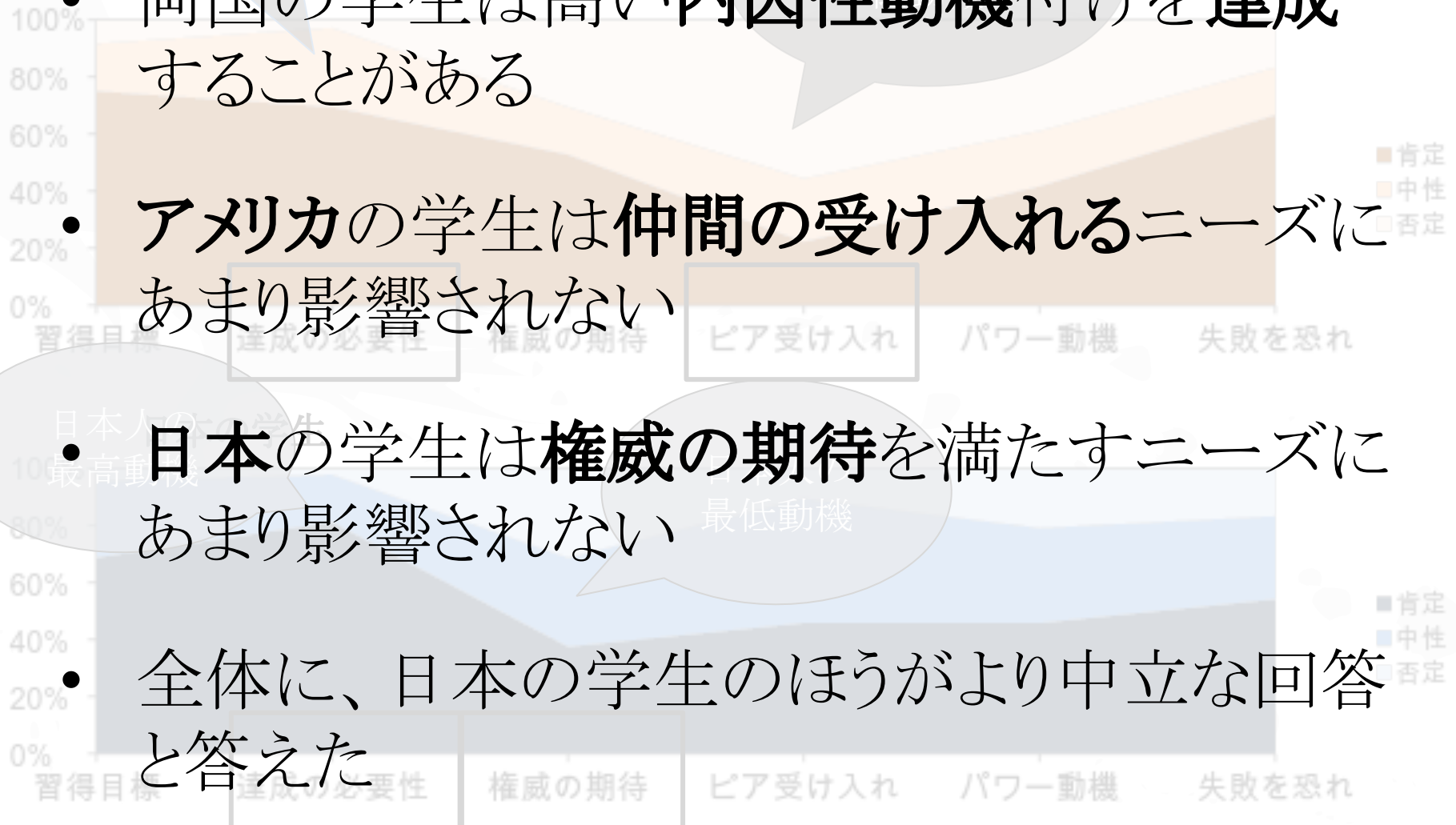
アメリカ人の最

- 両国の学生は高い**内因性動機**付けを**達成**することがある

- アメリカの学生は**仲間の受け入れる**ニーズにあまり影響されない

- 日本の学生は**権威の期待**を満たすニーズにあまり影響されない

- 全体に、日本の学生のほうがより中立な回答と答えた

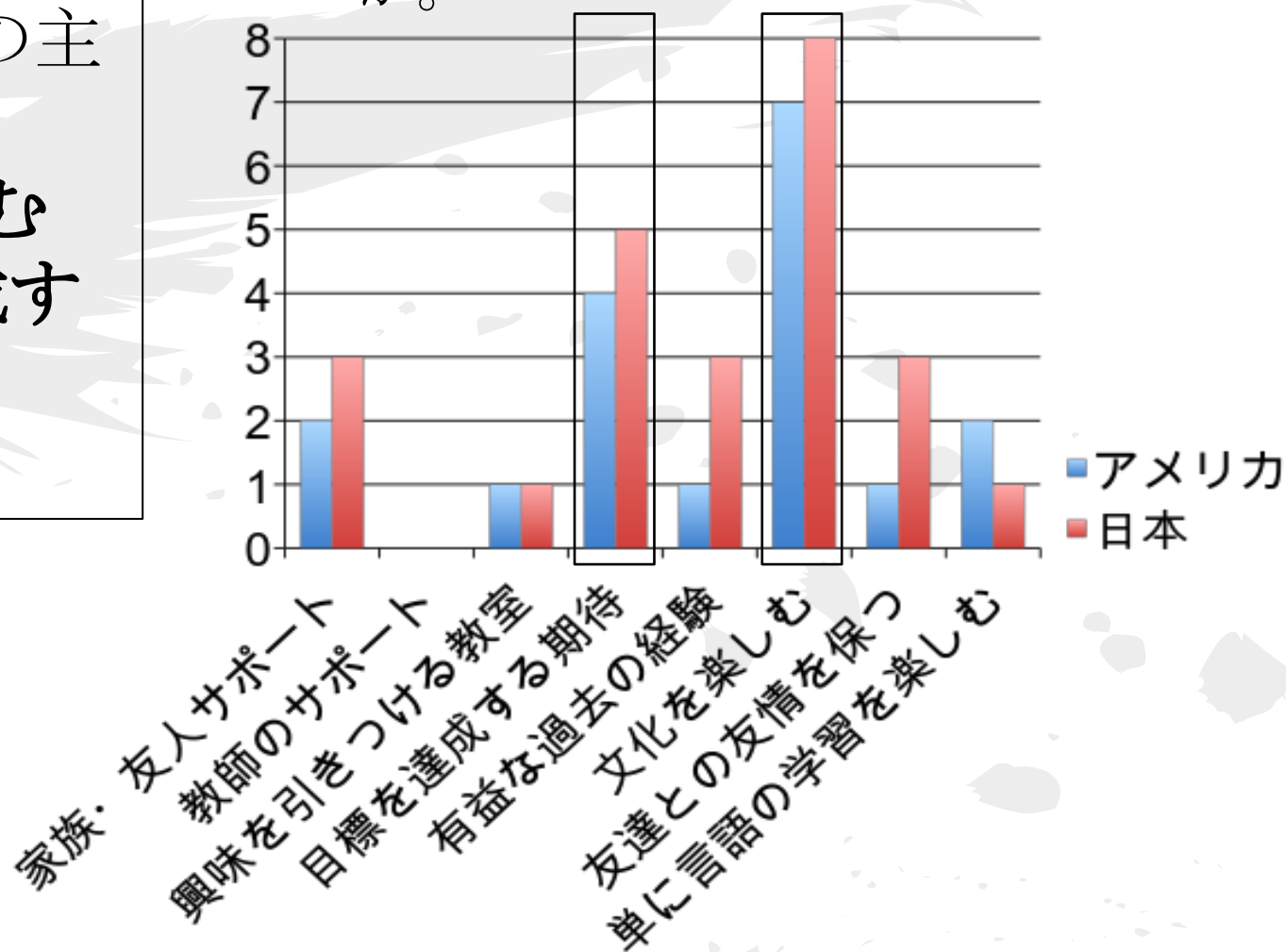


# 外国語学習の主要な動機

あなたのかかっている外国語への目標の主な動機は何ですか。

両国の学生の主要な動機は

- 文化を楽しむ
- 目標を達成する期待



# 研究質問2の要旨

- 両国の学生の目標は異なるが、**雇用機会**や**外国語を理解する**
- 目標を達成することは**むずかしい**と思っている
- 両国の学生は**内因性動機**の目標が高い
  - 主な動機は**文化を楽しむこと**
  - 内因性動機付は外国語能力を高めるのに貢献する

# 結果

- 外国語学習者は、両国とも**仕事、教育、政治**に外国語話者がもっと必要だと思う
- 両国の学生は国の外国語の必要性に**貢献したい**願望が高い
- 貢献したいという**学生の目標**は将来肯定的影響を与える

# 研究の限界点と将来の研究課題

- 研究に於ける限界点
  - 外国語を学んでいる大学生だけを対象にしたため一般化できない
  - 全国の意見ではない
- 将来の研究課題
  - 比較意見：
    - 外国語学習者対一般公衆の調査
    - 外国語学習者対他の学生の調査

# 参考文献

- 独立行政法人大学入試センター. (n.d.). Retrieved April 13, 2015, from <http://www.dnc.ac.jp/>
- English Education Reform Plan corresponding to Globalization. (n.d.). Retrieved February 11, 2015, from [http://www.mext.go.jp/english/topics/\\_icsFiles/afieldfile/2014/01/23/1343591\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/english/topics/_icsFiles/afieldfile/2014/01/23/1343591_1.pdf)
- Furman, N., Goldberg, D., & Lusin, N. (2010, December 1). Enrollments in Languages Other Than English in United States Institutions of Higher Education, Fall 2009. Retrieved March 12, 2015, from [http://www.mla.org/pdf/2009\\_enrollment\\_survey.pdf](http://www.mla.org/pdf/2009_enrollment_survey.pdf)
- 平成23年度高等学校等における国際交流等の状況について(2011, January 1). Retrieved April 8, 2015, from [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2013/10/09/1323948\\_02\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/10/09/1323948_02_1.pdf)
- HIGH SCHOOL SUBJECT REQUIREMENTS. (n.d.). Retrieved April 10, 2015, from [https://secure.csumentor.edu/planning/high\\_school/subjects.asp](https://secure.csumentor.edu/planning/high_school/subjects.asp)
- Locke, E. , & Latham, G. (2006). New directions in goal-setting theory. *Current Directions in Psychological Science, 15*(5), 265-268.
- Maurer, C. D. (2010). FOREIGN LANGUAGE CAPABILITIES: Departments of Homeland Security, Defense, and State Could Better Assess Their Foreign Language Needs and Capabilities and Address Shortfalls. Retrieved February 2, 2015, from <http://www.gao.gov/products/GAO-10-715T>
- Schunk, D., & Zimmerman, B. (Eds.). (2008). *Motivation and Self-Regulated Learning: Theory, Research, and Applications*. New York: Routledge Taylor & Francis Group.
- States with or Considering High School Foreign Language Graduation Requirements Revised March 2010. (2008, February 1). Retrieved February 11, 2015, from <http://www.ncssfl.org/docs/States with Foreign Language Graduation Requirements - Revised 2010.pdf>
- Title IX - General Provisions. (n.d.). Retrieved April 10, 2015, from <http://www2.ed.gov/policy/elsec/leg/esea02/pg107.html>

# 感謝の意

- 関根繁子先生
- 齋藤-アボット佳子先生
- 寺島先生
- 家族と友達
- キャプストーンと同級生